



平成 21 年 10 月 26 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 免 疫 生 物 研 究 所
(コード番号：4570)
本店所在地 群馬県高崎市あら町5番地1
代 表 者 代表取締役社長 清 藤 勉
問 合 せ 先 経営企画室長 木 下 憲 明
電 話 番 号 027-310-8040 (代表)
U R L <http://www.ibl-japan.co.jp>

「中期経営計画」の策定について

当社は、本日（10月26日）開催の取締役会において、「中期経営計画」の策定について下記のとおり決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

I. 「中期経営計画」の策定について

1. 「中期経営計画」の位置付け

当社の属する医薬品業界は、大手医薬品会社において 2010 年前後に主力の大型製品が特許切れを迎え、安価な後発医薬品にシェアを奪われて大幅に売上が落ち込む可能性が高いことから、より収益性の高い技術の導入や合併の推進、研究開発の特化などへと展開しております。このように業界内の企業競争は激化しており、大手医薬品会社はもとより、収益性の高い技術を有しない企業の経営環境はことさら厳しい現実となっております。

また、本日発表の「開発パイプライン中止のお知らせ」において、「アステラス製薬株式会社（本社：東京都中央区、社長：野木森 雅郁、以下「アステラス製薬」）による抗オステオポンチン抗体の関節リウマチ治療薬としての開発が中止となり、当社の今後の業績および財政状況に影響を及ぼすこととなります。

このような状況の中で、当社は堅実な経営基盤を構築した上で研究開発に注力し、基盤技術の強化、新製品を生み出す環境の整備、そして、その先の医薬シーズ開発を目指してまいります。

そのために、2年後（平成 23 年度）の黒字転換と将来の成長に向けた方針と目標を「中期経営計画」として策定いたしました。

2. 「中期経営計画」の概要

(1) 中期経営計画の期間

平成 21 年 11 月～平成 23 年度

(2) 安定した収益源の確保

〔既存事業の建て直し〕

① 研究用試薬関連事業

当期第 2 四半期累計期間における試薬関連受託サービスの売上が、当初の目

標額から大幅に減少しており、通年での見通しも前年比 7.9%減となる見込みです。この原因は、医療費抑制を目的とした医療制度改革が進展する中、大手医薬品会社各社は、業界内の企業間競争緩和に向けた企業合併の推進を行っており、結果として販売先企業数が減少傾向であること、また大学・研究所などでは雇用人材の絞込みや研究案件の縮小などが影響しているものと考えられます。さらに、政権交代後の医療制度についても未だ明確な施策が公表されないまま、今後大きく不安を残す形となっております。

一方このような状況の中、当社においては、差別化の出来る自社開発の抗体や測定キット製品群の売上が増加の傾向にあり、今後さらに自社独自の新製品の開発を推進してまいります。

②実験動物関連事業

当社では昨年から今年にかけて、国内研究機関より導入し製品化した疾患モデル動物として、アトピー性皮膚炎モデルであるNCヘアレスマウスと、アルツハイマー病モデルであるPS2マウスの販売を開始いたしました。売上高は伸び悩んでおりました。その後、販売価格の見直し等を行い営業体制を強化した結果、受注増の傾向となり、今後の安定した収入源になるものと確信しております。

また、これらの新製品にかかわる繁殖飼育などの疾患モデル動物受託を積極的に行うことにより、さらなる収入増が見込まれます。

③医薬関連事業

異常型プリオンタンパク質は、牛海綿状脳症（BSE）の原因とされております。当社は㈱ニッピと共同で、その測定キットを動物用体外診断用医薬品として開発いたしました（平成 18 年 11 月農林水産省承認）。現在当社は、㈱ニッピから製造委託を受け、本製品の供給をいたしております。本製品は既存製品と比較して、安価かつ簡便に検査が出来るという特長を有していることから、市場での評価が高く、来期は大幅増の受注を計画しております。

〔新たな収益源パイプラインについて〕

①CCL8 について

北海道公立大学法人 札幌医科大学との産学連携による共同研究の成果として、骨髄移植に伴うGVHD(Graft-Versus-Host-Disease)の発症の診断や本病態のモニタリングに有効なケモカインの一種である CCL8/MCP-2 の測定キットの開発をいたしました（2009 年 1 月 26 日発表）。現在、診断薬に向けたライセンス契約締結に向けて具体的な交渉を進めております。

②ガレクチン-3 について

当社は、ビージーメディシン社（本社：米国ウォルサム市）が現在行っている、うっ血性心不全の体外診断用医薬品開発用として、当社開発の抗ヒトガレクチン-3モノクローナル抗体を長期間供給するという独占契約を締結しております（2009 年 1 月 28 日発表）。将来、このような新しい心不全の予測マーカーが体外診断用医薬品として全世界で上市されることで、新たな収入源となることが期待されます。

③新規タンパク質製造技術について

当社は平成 21 年 7 月より㈱ネオシルクを子会社化し、同社の保有するトラ

ンスジェニックカイコ（以下「TG カイコ」）による有用生理活性タンパク質の製造技術を生かした製品開発・販売を進めてまいります。本技術は、開発ターゲットタンパク質として、サイトカイン・増殖因子などの生理活性物質および抗体など多岐にわたり、汎用性を有する技術であります。製品化は、現在㈱ネオシルクが開発保有している生理活性物質などから開始し、順次、顧客ニーズの高い品目を中心に、研究用試薬、さらに体外診断用医薬品原料等へと展開してまいります。

一方、TG カイコの大量生産体制の構築に関しては、群馬県蚕糸技術センターと共同研究を開始しております。将来、ヒト化抗体開発を目指した基礎研究および生産体制の具体化を進めてまいります。

④補助金について

当社は、現在、NEDO（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）プロジェクトに参画中であります。また新たな公的補助金の公募に積極的に取り組み、これまで構築してきた種々の大学・公的研究機関との連携体制を基に研究開発を進め、実用化を推進してまいります。

(3) 医薬シーズパイプライン

三笠研究所において、共同研究先の大学および研究機関と密接に研究開発を進め、年間に少なくとも1つの医薬シーズ開発を目指し、以後製薬企業への導出を進めてまいります。現在のパイプラインは以下の通りです。

[アルツハイマー病関連抗体]

当社は、アルツハイマー型認知症との関連が示唆されているアミロイドβタンパク質に対する各種抗体の研究開発を行っております。既に開発に成功した抗体のうち、コード名「82E1」について、平成18年12月に米国Intellect Neurosciences, Inc.とアルツハイマー型認知症治療薬としての独占的開発、製造および販売権を譲渡する契約を締結しております。今後当社は、開発の進捗に応じてマイルストーン契約金、そして製品発売後には売上に対する一定率のロイヤリティーを受領する予定であります。

また、アミロイドβタンパク質に対する新しい中和機能を有する抗体の開発を、共同研究先である大学および専門研究機関と共に進めております。

[抗FGFR1（線維芽細胞増殖因子受容体）抗体]

札幌医科大学第一内科と共同で、当抗体の肝がん治療薬としての開発を進めております。治療効果のある抗体と生理活性タンパク質とを組み合わせた新規治療薬として、既に動物実験での効果を確認しております。

[その他がん関連抗体]

がんのシグナル伝達に関わる受容体ターゲットを中心にして、上皮がん、中皮腫などの疾患に対する治療薬抗体の開発を進めております。

(4) 経営の効率化およびコスト削減

[高崎本社と藤岡研究所との統合]

高崎本社を藤岡研究所に統合することにより、間接部門の合理化を図り、また経営・販売・製造の一体化を推進し、製品品質の向上および製品供給スピードの向上を目指します。

[新システムの構築]

平成 22 年度より新システムを稼働させ、社員のポテンシャルを最大限に発揮するためにシステム環境整備を推進し、経営の合理化・信頼性を確保いたします。

〔研究開発課題の選択と集中〕

従来より藤岡研究所で進めてまいりました抗体医薬シーズに対する研究開発を三笠研究所に集約してまいります。このことより、三笠研究所は疾患モデル動物の開発も含め研究開発の拠点となります。

一方、抗体や ELISA キットなどを中心とした研究用試薬関連の商品開発は藤岡研究所に集約し、研究用試薬関連商品の開発効率化を図ります。

3. 「中期経営計画」の数値目標

単位：百万円

	2009年3月期 実績	2010年3月期 見込	2011年3月期 計画	2012年3月期 計画
売上高	1,036	1,030	1,200	1,285
研究用試薬関連事業 計	563	550	605	645
（抗体関連試薬販売）	286	297	310	320
（その他の試薬販売）	75	66	105	135
（試薬関連受託サービス）	202	186	190	190
実験動物関連事業 計	359	343	355	400
（疾患モデル動物販売）	350	334	330	355
（疾患モデル動物関連受託）	6	1	10	20
（飼育・保管等サービス）	3	9	15	25
医薬関連事業 計	110	135	235	235
（医薬シーズライセンス）	-	-	-	-
（体外診断用医薬品販売）	110	135	235	235
その他事業 計	4	2	5	5
原価・販売管理費	1,418	1,220	1,265	1,280
人件費	447	380	340	340
減価償却費	131	110	105	80
売上原価 （除く、人件費・償却）	436	430	525	550
その他販売管理費 （除く、人件費・償却）	404	300	295	310
営業利益	△382	△190	△65	5
			営業 C/F 黒字化を目指す	営業利益 黒字化を目指す

当社は、上記の施策を全社一丸となり、一つ一つ着実に実行し、「中期経営計画」の数値目標を達成すべく邁進してまいります。

以 上